

CONTENTS

2	情熱の奥州人
4	平成 22 年度 市政懇談会開催報告
13	証明書のコンビニ交付開始
14	下水道使用料が変わります
15	自殺を防ぐためにわたしたちができること
16	第 11 回奥州前沢劇場「牛になった少年」グラフ
17	第 27 回奥州胆沢劇場「シゲの奇跡～茂井羅堰異聞」グラフ
18	市の出来事から
20	まちの話題
22	つながれ 広がれ NPO の輪
24	子そだて広場 わが家のアイドル
25	消費生活相談 市長コラム「おうしゅう羅針盤」 お元気レシピ
26	キラリ人輝く 夢トーク
27	クラブ紹介 ぼんたのつぶやき
28	くらしの情報
32	奥州遺産

〈今月の表紙〉



農家の年中行事を基にした祭り「全日本農はだてのつどい」が2月12日、胆沢野球場特設会場で開かれました。庭田植再現や大臼福餅つきなどが行われ、五穀豊穡や農作業の安全を祈願しました。

メインとなる福俵引きには、厄年連の会員約270人が挑戦。重さ8トンの福俵を、力を合わせて引っ張りました。最期の難関「豊作坂」も引き上げると、会員たちからひととき大きな歓声が上がりました。



手入れの行き届いた鉋を手に、真剣なまなざしで製作に励む祐一さん

「伝統工芸は思いを形にする仕事。これが江刺産と胸を張れる製品を作り続けたい」と語る(有)岩谷堂うるしタンス工房の亀井祐一さん。

昭和10年に創業した祖父に三代目とかわいがられ、家業を継ぐことに迷いはなかった。バブル景気も終わりの平成2年、仙台の専門学校を卒業し帰郷。祖父の一番弟子に塗りを学んだ。「初めて作った整理たんすは、壊れないか不安だった」と当時を振り返る。

不器用だからこそ、器用になろうと励む。前向きな姿勢は、逆境で力を発揮した。不景気で注文が減ると、観光客でも手軽に買える物を作ることを決意。工房独特の鏡のような艶のある「木地呂塗り」などの小物は、たちまち人気

土産になった。

閑散とする市街地に、藤原の郷の観光客を何とか呼び込みたい。祐一さんの思いはまちづくりにも広がる。

平成9年、民間街づくり会社(株)黒船を10人の仲間と共に設立。熱い気持ちを持つ人は大勢いる。そう考え、まちづくりの要となる「若者、馬鹿者、よそ者」の支援に無償で取り組む。活動を通じて「感謝の気持ちを忘れなければ、自分の力不足を助けてくれる人が必ずいる」とそう確信するようになった。

「需要が減っても、決して無くならない。人を引きつける力が伝統工芸にはある」という祐一さん。その手は、伝統の灯をともし続け、新しいまちの未来をも形作っていく。



6

伝統工芸の灯を絶やさず 奥州江刺に新たな息吹を

亀井 祐一さん (39歳)
江刺区栄町



かめい・ゆういち◎昭和46年江刺区栄町生まれ。(有)岩谷堂うるしタンス工房専務取締役、(株)黒船代表取締役社長、第38回江刺甚句まつり41歳連煌碧会会長を務める。家族は妻、1男1女、父母。